

【乳汁検査まとめ】

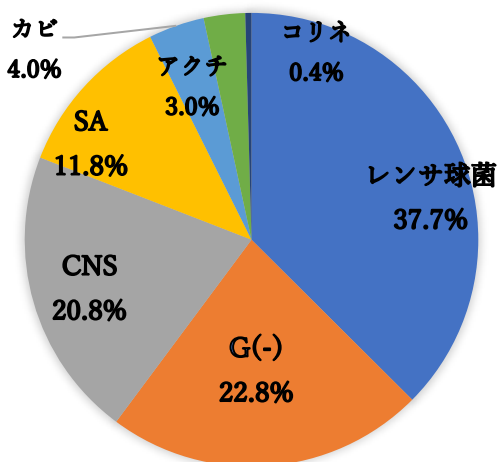
2024 年の 1 年間で弊社で検査した乳汁検査について報告します。

	注射薬	軟膏
AM	アンピシリン Na ビクシリン	ー
Cz	セファゾリン注	セファメジン
ERFX	バイトリル 10%	ー
K	カナマイシン	タイニーPK
ST	トリオプリン	ー
T	OTC 注	OTC 軟膏

表 1 略語、薬品対応表

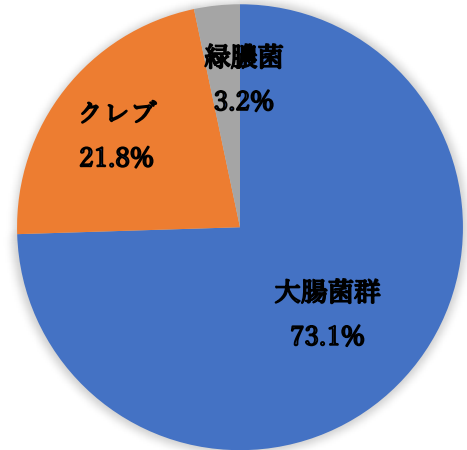
2024 年の 1 年間で実施された乳汁検査では、延べ検査頭数 1661 頭、延べ検査分房数 3064 分房でした(重複含む)。この中で菌の生えたものは 56.3%、菌の生えなかったものは 43.7%でした。スクリーニング検査や乳房炎の治癒判定での検査等含まれるので、菌なしの割合が半数弱あると思われます。

菌の生えたものの内訳は、レンサ球菌 (OS、ウベリス、エンテロコッカス) が最も多く 33.7%で、次いでグラム陰性菌(大腸菌、クレブシエラ、緑膿菌、その他の大腸菌、菌種不明のグラム陰性菌含む)が 22.8%で、CNS が 20.8%、SA が 11.8%でした。(グラフ 1)



グラフ 1 乳房炎原因菌割合

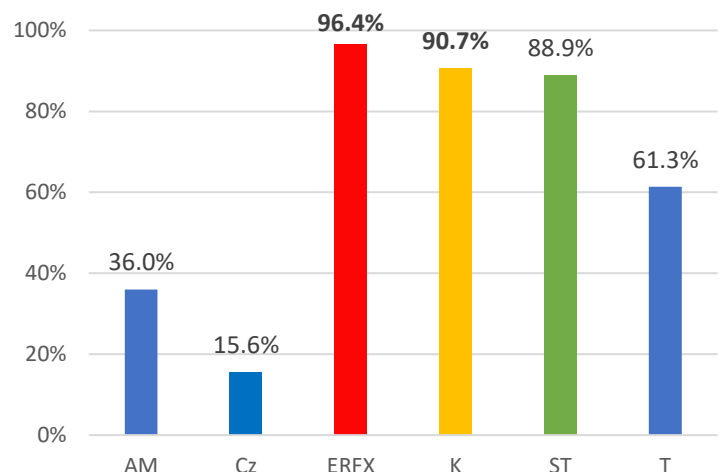
グラム陰性菌を G (-)、酵母様真菌をカビ、
アロカノバクテリウムノボマクニ フリロバクテリ



グラフ 2 グラム陰性菌割合

クレブシエラをクレブと表記

大腸菌群 (大腸菌、大腸菌群、菌種不明のグラム陰性菌含む) 73.1%、次いでクレブシエラが 21.8%、緑膿菌が 3.2%となりました。

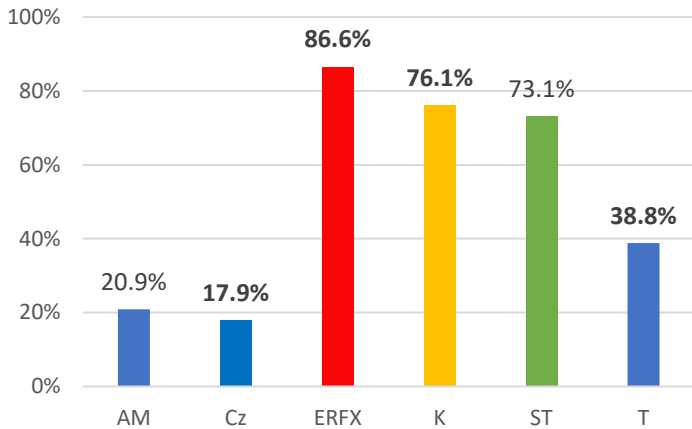


グラフ 3 大腸菌群感受性割合

ERFX (バイトリル 10%)、K (カナマイシン、タイニーPK)、ST (トリオプリン) の感受性割合が高く、ERFX、K は共に感受性割合 90%を超えています。



Total Herd Management Service



グラフ 4 クレブシエラ感受性割合

大腸菌群同様に、ERFX、K、ST の感受性割合が高い結果となりました。Cz（セファゾリン注・セファメジン）以外は、大腸菌群の感受性割合と比較して 10%以上低い結果となりました。これはクレブシエラが大腸菌群と比較して難治化し易いという特徴とも一致しています。

大腸菌群、クレブシエラ共に AM（アンピシリン Na、ピクシリン）、Cz、T（OTC 注、OTC 軟膏）は感受性割合が低い結果となりました。大腸菌群の T 感受性割合は 61.3%ではあります。個人的には、ショック症状を含む全身症状が強く出ている場合において、この数値は心もとなく感じる数値ではあります。

緑膿菌は ERFX、GM（ゲンタマイシン）の両方又はどちらか一方のみ感受性がある場合が多く、その他の薬品の感受性はありませんでした。

全ての乳房炎を検査し、感受性薬剤で治療することが基本です。特に、治りの悪い乳房炎に対しては、乳汁検査を実施し、感受性薬品での適切な治療を行いましょう。これから乳房炎が増加してくる季節です。無駄のない治療を心がけましょう。

次回は 2024 年の乳汁検査におけるグラム陽性菌（SA、CNS、レンサ球菌等）について報告します。



